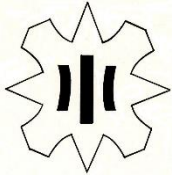


学校だより



せせらぎ

Well-being



令和5年12月号

山中小学校長 尾崎 純子

「やってみよう 山中小!」・・・自分も人も大切にする

人権週間の取り組みで、まわりの人のよいところをカードに表現し、みんなで「ぼかぼかの木」を作ろうという活動をしました。子どもたちは、日々ちょっとした言葉や行動がトラブルにつながる場合があります。しかし、関わりの中で生じる喜怒哀楽が、他者や自分自身への理解につながっていきます。先日、緑の生活体験でお世話になっている林昌則さんのお話を聞く機会がありました。ひきこもり支援を中心に多彩な活動をされており、人と人のつながりの大切さを話してくださいました。私は、公立学校の意義は人と関わり、自分自身の良さを知り大切にするとともに、それぞれに違う考えをもつ周囲の人々を尊重しながら集団を形成していくことを、学んでいくことだと思います。「人は、人との関わりの中で成長する」この言葉を信じ、他者を理解しよりよい行動につながるよう、子どもたちとともに考えていきたいです。



この2学期は、運動会やマラソン大会、バス遠足や自主プランの他、講演会や授業参観など様々な学校行事を行うことができました。また、学年でも、山中の街中に出かけたり、ゲストティーチャーをお招きして学習したりと活発な学習活動を行うことができました。保護者の皆様におかれましても、子どもたち自身が2学期の成長をしっかり実感し、さらに3学期もがんばって自分の良さを伸ばしていこうという意欲を持てるよう、お子さんたちへの温かい声かけをお願いいたします。保護者・地域の皆様方の温かなご支援、ご協力のおかげで子どもたちは2学期を終えることができます。本当にありがとうございました。

あやとり学級と、河南小学校との交流会
多くの準備をして、当日を迎えました。
堂々とした司会の姿や発表する姿に、
成長を感じました。



6年生の代表が、市 STEAM
発表会に向けて、全校児童に
総合で学んだ成果を発表しま
した。



12月15日
"Kaga STEAM
FES"
本番では「さすが
6年生!」と感じ
た発表でした。



5, 6年生 総合的な学習 大西久雄先生をお招きした
「生成AIとの向き合い方を考える」授業

「生成AIとの「桃太郎」家来評価対決」など興味深い課題を通し、楽しみながら集中して考え、意見交流していました。「AIどころかネットの情報もすぐ信じてしまうから、もっと本当にそうなのか考える」など、子どもたちはAIのよさと便利さを理解した上で、自分の頭で考え、判断していくことの必要性を学んでいました。生成AIはまだまだ発展途上だそうです。将来「善き社会の担い手」となるため、今後じょうずに活用してほしいです。



本校のスクールカウンセラー藪下先生が、保護者の方にコラムを寄せてくださいました。ぜひ、お読みください。

「なぜ「コソコソ話」をされると不安になるのか」

昔から、向こうで誰かがコソコソ話をしているのを見ると「自分のことを言っているのかもしれない」と考えてしまう、という話をよく聞きます。実際には自分のことを話していなくても、そう考えてしまうのです。こうした「~かもしれない」「~な気がする」という不安の裏にありがちな「こころのメカニズム」について説明していきます。

人には「自分の心の内に抱えていることを、自分ではなく他者が抱えていると感じる」という「こころのメカニズム」が存在します。例えば、誰かに対して怒りを覚えると、自分ではなく「相手が怒っている」と感じるということです（夫婦間でもよく起こりそうですね）。この「こころのメカニズム」を心理学の世界では「投影」と呼びます。ですから、例えば、「自分はダメだなあ」という思いがあると、「他者が自分のことを悪く思っている」と感じやすくなってしまいます。冒頭の「コソコソ話を自分の悪口と捉える」という訴えの裏には、投影という「こころのメカニズム」が働いている可能性があるのです。

こういう「こころのメカニズム」を理解したうえで、周囲の大人は適切な対応をしていくことが重要です。まず大切なのは、子どもが「自分はダメだなあ」と感じているのであれば、その思いを受けとめていくことです。思いを受けとめていくとは、「あなたはダメじゃないよ」と否定するのではなく、「あなたがダメでも大切なんだ」と伝えていくということです。

こう言うと「子どもの自信がなくなってしまう」と思われがちですが、それは間違いです。子どもにとって大切なのは「不安を感じている自分」「弱い自分」であっても、ちゃんと向き合ってもらえる、不安を支えてもらえるという体験です。この体験があれば、子どもは不安を感じつつも、現実に向き合って成長する力が湧いてくるのです。

また、子どもが不安な状況に入っていくときに、「思っていたよりも大丈夫だった」という体験を繰り返すことも大切です。例えば、子どもが不安な状況に入ったときに「思っていたのと比べてどうだった？」と聞いてみるなどです。だから、外の世界を（可能な限り、不自然じゃない程度に）安心できるものにすることも大切です。

投影という「こころのメカニズム」が働いている場合、外の世界を過剰に怖く感じやすくなってしまいます。ですから、不安な状況に入ったけど「大丈夫だった」という経験を繰り返すことで、外の世界に対して適切な捉え方を学んでいくことができます。こういう「不安の答え合わせ」によって、自分の「こころ」と「外の世界」のバランスを調整していくことが重要なんです。